



港区立南山幼稚園

Minato City, Nanzan Kindergarten

2月園だより

令和6年1月29日
January 29, 2024
園長 河合 晴美
Principal
Harumi Kawai



振り返り、前に進む

園長 河合 晴美

先日の正月遊びの会に御参加いただきまして、ありがとうございます。日ごろ目にすることの少ない羽根つきや竹馬に夢中になり遊ぶ姿が印象的でした。その後もあやとり、お手玉、竹馬に取り組む5歳児さくら組、コマを見せ合い回す4歳児ばら組と3歳児りんご組の様子があり、共通に楽しんだことが伝わっていく伝承遊びのよさが見られています。

さて、今年度の学校評価は、保護者や学校運営協議会委員の皆さまの他、保護者の皆さまの協力のもとに「幼児に聞く学校評価」を実施しました。その結果、私たちが関わる中で知る幼児の思いの他、保護者の皆さまとの会話の中で見られた幼児の思いは、大変興味深く新しい発見がありました。(以下は、2つの評価に対する詳細です)

① 園内研究で取り組んだ自然との関わりに関する事項では、りんご組は、ユズ、落ち葉やマツバ、トンボ、オタマジャクシやダンゴムシ等自然との出会いを喜び、様々に感じています。ばら組は、バッタにネコジャラシをあげたことやチョウをもっと捕まえたいという思いなど、自然に積極的に関わっていく楽しさを経験しています。さくら組は、カメムシやヒガンバナ等、初めて知る生き物や植物の名前、特徴を具体的にあげ、自分が関わることで得られた思いを表していました。これらから各学年による姿が分かり、発達や実態を捉えた今後の指導の方向性も明らかになりました。

② 国際理解教育として4・5歳児の誕生会では、毎月在園する幼児に関わる国を取り上げ「世界の国となかよしに・・・」とし国旗、風景(特徴的な場所)、乗り物、食べ物、母国語でのありがとうの表現を伝えました。毎回4、5歳児は大きな反応とともに参加し「○○を食べてみたい」「○○を見てみたい」と興味・関心を示していました。評価の事項では、幼児なりに「自分がいるところと異なることがある」「同じようなこともある」と多様性に触れ、受け止めることを経験していました。そして、「行ってみたい」「(実際にその国の言葉で)ありがとうを言ってみよう」と世界と自分がつながり、身近に感じていく思いを知ることができました。一つの経験や継続していく経験で幼児の生活は豊かになること、そのきっかけと可能性は無限にあることが分かりました。

私たちは、教育活動を振り返り、分析や考察を丁寧に行うことで新たな教育活動につなげています。それは、毎日行いながら明日につながる手立てを探り、今日の上に明日がより豊かになるように考え行ないます。そのため、学校評価でいただいたご意見の他、送り迎えの際にも丁寧に皆さまの声を聴き、受け止め、反映していきたいと思っております。



<正月遊びの会>